

第10回 こども10円商店街 実施報告書

NPO 法人 まちなびや

◇事業趣旨

子どもが商品販売やサービスを提供する「自分の店」を企画運営する体験を通して、多世代の人々との関わりを学習する。また、大人がお客となってこども店長を応援することで、地域の教育力向上を目指す。

◇実施内容

1 第1回店長会議 2月3日(日) 9:30~11:30

葵生涯学習センター 31 集会室

参加者 こども店長 37名 保護者 27名 スタッフ 8名

- ・保護者・こども合同ガイダンス
- ・販売品・提供サービス、店名を決める
- ・お金や接客についてのレクチャー(しずおか信用金庫様)
- ・看板(のぼり旗)づくり

※11:30~14:00まで、昼食後に商品・看板製作(希望者 18名ほど)



2 第2回店長会議 2月17日(日) 9:30~11:30

葵生涯学習センター 大音楽室

参加者 こども店長 38名 スタッフ 6名

- ・販売リハーサル・売上表記入練習

※11:30~14:00まで、昼食後に商品・看板製作(希望者 22名ほど)

3 こども10円商店街本番 3月3日(日) 10:00~12:00・13:00~15:00

葵生涯学習センター 入口ロビー

参加者 こども店長 40名 スタッフ 8名

一般来場者約 2462名

- ・販売、サービスの提供 → 総売上 19,660円
- ・両替対応・売上集計(協力:しずおか信用金庫様 10名)



<出店一覧（全16店舗）>

販売系	ゲーム・くじ系	サービス系
手作りショップ おりがみのおかしやさん 森のおもちや屋さん しおりやさん バニラコロン	CNN フィッシング コインおとし屋 キャップカーリング ドリームきらくじ 2019 ピコピコ玉屋さん スーパーボール MHK 10円まとあて しんかいさかなつり たおせ！ボーリング屋 カーリングショップ	スノードーム

4 第3回店長会議 3月10日（日） 13:30~15:30

葵生涯学習センター 大音楽室

参加者 こども店長 33名 大人スタッフ 7名 寄付先 2団体 6名

（おはなしバスケット 熊谷様含め 4名、静岡クイズ愛好会 久野様 2名）

- ・ 寄付先団体からのプレゼンテーション
→こども店長による投票・寄付金贈呈式
- ※金額：おはなしバスケット 11,300円 静岡クイズ愛好会 8,360円）
- ・ 振り返り（4~5店舗ずつのグループで意見交換）
- ・ スペシャル商店街（13店舗出店）
- ・ 修了証贈呈



◇広報

- ・ 店長募集チラシ（総計 5,000部配布）
葵生涯学習センターより配布 4900部
（近隣小学校、自治会、生涯学習センター等）
まちなびやより配布 100部
（池田屋様、しずおか信用金庫様等）
- ・ 店長募集の案内をコドモンデ 41号に掲載（30,000部）、市内小中学校に配布
- ・ 当日チラシ 4000部
こども店長たちが各自学校や友人等に配布 2500部
まちなびや 500部
池田屋様 100部
しずおか信用金庫 200部 ほか
葵生涯学習センター様 700部



◇事業の成果

これまでの実施も含めて、こども 10 円商店街の成果として三つ挙げる。

○「お客さんが喜ぶ」ことを喜びと感じられたこと

店長会議 1 回目でしずおか信用金庫様のワークショップで、接客(声だし、挨拶、お辞儀のマナー)、お金の扱い方など、店舗運営のために必要な知識を学んだ。おじぎの仕方についてしっかり意識した子が多かった。お店づくりでは、グループの中で店の内容や手順などを話し合い、リハーサル等行い準備を重ねた。本番ではお客さんを積極的に呼び込むこともでき、ワークショップの成果が発揮された。事後の振り返りにおいて、「おきゃくさんがいっぱいきてくれてうれしかった」という子どもも多くいたが、「おきゃくさんによろこんでもらえるようにがんばった」「一番大じなのはおきゃくさんがたのしんでいること、よろこんでいることだとおもいました」など、お客が来ることだけではなく、喜んでもらえることを大切に感じている子どもも見られた。

さらに、最後の店長会議で行ったスペシャル商店街では、本番忙しかった店長たちがお客となってゲームや買い物を楽しむことができた。一方で、その時お店を開いた店長たちは、本番を振り返りながら楽しく接客を行っていた。このように 10 円商店街をお客の立場からも体験するということが、最後の振り返り活動として有意義であったと考える。

○売上を寄付したことにより、人の役に立つことを実感できたこと

こども 10 円商店街本番後の店長会議にて、寄付先候補団体のプレゼンテーションをもとに、子どもたちが応援したいと感じる団体への投票数に合わせた金額を寄付した。自分たちが暮らす地域の中で、小さいけれど人の役に立つ活動をしている団体に対して、子どもたちは投票先を真剣に悩み考え、決めることができた。自分で稼いだお金の寄付先を決定するという行為は、誰かの役に立つことを意識する貴重な体験となった。

また、第 10 回である今回有意義であった点として、こども店長たちと寄付先団体の接点が寄付だけではなく、具体的な活動の一部を見たり体験できたりしたことが挙げられる。静岡クイズ愛好会様は本番当日にわいわい祭りに参加しており、こども店長たちがクイズに参加する機会を持つことができた。また、おはなしバスケット様は、実際の活動で子どもたちに渡しているプレゼントを、こども店長たちにも配布した。このように、こども店長たちが寄付先団体のプレゼンを聞くだけではなく、体験を通して接点を深めることができた。

○本事業に対する子どもたちの満足度が高い

子どもたちには、店長会議各回と本番の終了直後にふり返りシートを記入してもらっている。今回においても「今日の 10 円商店街本番はどうだったかな？」という質問に対して、90%のこども店長が「とてもたのしかった」と回答した。前回同様、店長会議にてこども店長が主体的に活動できる場面を多く設け、本番でお店をやり遂げたことによって、達成感が大きかったのではないかと考える。

10 円商店街終了後に保護者にもアンケートを実施したが、本事業への満足度も高く、子どもたちのいきいきとした姿に喜ぶ声が多数寄せられた。回答者全員が「お子様をまた『10 円商店街』に参加させた

い」に肯定的な回答を示した。

一方、今後の課題として、下記が挙げられる。

●こども店長ノートの活用について

今回は第10回のこども10円商店街であることを記念して、「こども店長ノート」を作成した。これまで店長会議ごとに配布していた次回のお知らせや振り返りシートを冊子に一括化し、こども店長たちに見通しを持ってもらうことが目的である。この店長ノートを作成したことによって、子どもたちの書類の紛失は減少した。しかし、店長ノートを家に忘れてくるこども店長がいたり、振り返りシートを冊子にまとめたことで、子どものフィードバックの回収が難しくなったりするなどの課題が挙げられた。今後、店長会議で使うワークシートを追加したり、保護者が振り返りを確認できることを伝えるなど、店長ノートを有効活用する方法について検討していきたい。

◇実施体制

主催：静岡市葵生涯学習センター、NPO 法人まちなびや

協力：しずおか信用金庫、千代田スクール、静岡大学教育学部塩田研究室

◇後援 静岡市教育委員会

◇大人スタッフ

板倉りえ子、多々良直樹、田中知子、戸谷雄一、廣瀬拓哉、村田優、弓削幸恵、渡邊麻衣、阿部由里子、勝村明、水野瑚都 計11名

しずおか信用金庫様 10名



本事業は、池田屋「子ども思いの森 生きるカファンド」の助成によって実施しました。

子ども思いの森  池田屋